

障害者用音声・点字等データと 全国の所蔵資料共同利用のためのオンラインサービス 「サピエ」の紹介

N P O 全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）

サピエ事務局長 加藤俊和

1. 「サピエ」は発展し、何をもたらそうとしているか？

<サピエの活用で情報環境が大きく変わった！>

(1) 1988年「てんやく広場」→1998年「ないーぶネット」→2010年「サピエ」

1988年、「てんやく広場」日本IBMの社会貢献活動で点字データの共同利用開始。

1994年12月、点字データのネット個人直接利用が始まる

1998年：「ないーぶネット」全視情協運用。点字・録音所蔵資料オンリク開始。

2004年：日点と日ラで、音声データ「びぶりおネット」の配信が始まる。

2010年4月：「サピエ」システム管理日点、運営全視情協。「びぶりお」を統合。

<点字+音声デジータ+点字・録音資料オンリク> <地域・生活情報>

2014年1月：国立国会図書館「視覚障害者等用データ送信サービス」開始

2014年6月：国立国会図書館の「サービス」を「サピエ」からも利用。

(2) 2014年現在の状況（詳細は「2.」）

* 「サピエ図書館」のデータ：点字16万、音声デジータ5万タイトル直接ダウンロード

各館の登録書誌80万タイトルの相互貸借オンラインリクエストも実現

* 利用者：直接利用は1万3千人。オンラインリクエストで各館の6万人が利用。

(3) 「障害者への資料はずっとサピエで提供」ではない

* 権利条約での「合理的配慮」：「出版物」は適切な媒体・手段の「対等な入手」。

（ボランティアや低廉な協力者に頼るのは「当面のこと」で保障ではない。）

(4) 「必要な情報を分かる形態で」の目標：「ないーぶネット」→「サピエ」へ

* 視覚障害者は必要な情報が得られない

（福祉、教育、研究、雇用、生活・家事、育児、様々な趣味や特技、・・・）

* 自分で探し必要な情報を直接得られるアクセシビリティの徹底を

* 現在急増している、高齢からの障害で障害適応が困難な障害者に対応を

障害者の家族や支援者などへ「対象者が理解でき覚えられる」範囲の伝え方。

（東日本大震災で、なぜ半数もの1・2級手帳保持者が「何も知らなかった」のか・・・。）

2. 「サピエ」の概要 <http://www.sapie.or.jp/>

(1) サピエ図書館

* 「サピエ」の個人直接利用

サピエの直接利用個人会員1万3千人は自由なダウンロード<視覚障害者の読書の自由>
点字データ16万タイトル+(肉声の)音声デイジーデータ5万5千タイトルは世界一。
(世界の主流は、いつでも点字や音声化できるテキストデータのサービスへ。)
A会員(視覚障害)は点字図書館でもカバー、ディスレクシアなどはぜひ公共図で。

* 携帯型機器の普及とサピエの対応

携帯電話「サピエモバイルデイジー館」はスマホ非対応で頭打ち。

iPhone、iPad で利用できる「Voice of Daisy」の出現で、どこまで広がる？

「デイジーオンラインサービス」利用は2千人へ(ポケット型利用、ネット閲覧室)。

* テキストデイジー(1千タイトル)利用の広がり、シネマデイジー(100タイトル以上)も。

* 「サピエ」の相互貸借オンラインリクエストで多くの間接利用

サピエの施設・団体会員を利用する視覚障害者は約6万人、他の障害者は？

施設・団体は289(公共図109、点字図86、大学7、盲学校18、ボラ団体43、他26)。

全国80万タイトルの点字本・テープ本・デイジーCDの相互貸借をオンラインで。
CDだけでなく、SD、USBなども含む様々な媒体でのサービスも。

(郵送サービスの問題：視覚障害者は無料だが、他の障害者は郵送料がかかる。)

* サービス等管理用「Web図書館システム」の導入も進む。

(2) 図書製作の支援システム

* 点字・音声資料の製作工程の管理：製作者・校正者・修正者、校正内容、日程管理
点字資料製作支援ソフトBESXも開発しサピエ施設・団体会員に配布。

下調べツール：読み方調べなど。

(3) 「地域・生活情報」でさまざまな情報

* 東日本大震災では、「点字毎日特別号外」連日掲載、一定の間接利用あり。

豊富な情報へ：行政・自治体からの福祉情報、緊急情報など

生活に必要な地域の種々の情報の集積＝視覚障害者以外も活用可能。

だれが発信？ 点字図書館、公共図書館、各団体が協力者を得て…

行政・自治体の協力で福祉情報。地元の企業やボラの協力で買い物情報なども。

視覚障害者その他の様々な方々への地域の情報の発信源になるか？

(4) サピエの「数」の推移

* データ数と書誌数 (タイトル数)

	(ないぶ) (サピエ)		(すべて年度末)		
	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3
点字データ	112,866	124,073	134,582	145,765	155,616
音声デিজィータ	—	22,897	33,798	42,795	50,591
テキストデিজィータ	—	37	92	196	534
マルチメディアデিজィータ	—	—	10	22	41
シネマデিজィータ	—	—	—	—	68
完成書誌合計	494,861	510,293	535,220	599,093	793,343

(利用急増)

* 個人利用会員数 (人)

(「びぶりおネット」の音声デিজィー1500タイトルは2011年9月にサピエに移行)

A会員(視覚障害者)	6,105	8,363	9,870	11,075	12,302
B会員(視覚障害者以外)	—	41	94	130	174
合計	6,105	8,404	9,964	11,205	12,476
増加数		+2,299	+1,560	+1,241	+1,271

* 利用施設・団体数

ネットワーク名	てんやく広場		ないぶネット	サピエ			
	1989.3	1998.6		2010.3	2011.3	2012.3	2013.3
点字図書館			85	86	86	86	86
公共図書館			57	58	69	87	94
大学図書館			12	11	9	9	7
視覚特別支援校			5	8	9	13	15
ボランティア団体			39	40	40	42	43
その他			15	20	22	24	26
合計	21	73	213	223	237	261	271

(2014.9)

(109)

<参考>

1. サピエ事務局 sapie-jimu@naiiv.net tel/fax: 06-6441-1078

「サピエ」の名称 サピエンティア (ラテン語で「知識・叡智」を意味する言葉) から。

2. サピエ“利用会費”

個人会員 (A会員、B会員) の利用は無料。(寄付のお願いはしている。)

施設・団体は年4万円。ボランティア団体は年1万円。

「高い」? <年4万円で数万冊もの音声データが利用できる! >

(“利用会費”の会計科目などの処理についてはサピエ事務局にご相談を。)

3. テキストデイジーについて

文字のデータ(テキストデータ)をデイジー形式に編集したもの。

(アメリカでは、「ブックシェア」として、20万タイトル)

製作は、全視情協として、ソフト「プロジューサ」使用を原則。12月に市販予定。

再生には、「テキストデイジー再生専用」の機器・ソフトで合成音声読み上げ。

PTN2、PTP1、ブックセンスなど。ソフト「Amis」やMybookⅢなど。

(注1) テキストデータの利用要求が高い。

視覚障害者等から、文字のデータ (テキストファイル) の利用要求高まる。

出版社からのデータ提供も一部にはある。CD付録、墨字本購入で提供、など。

多くの出版社は、データが流出して墨字の本が売れなくなるのを恐れ、提供しない。

→ 階層化などの機能に加えてセキュリティ機能のあるテキストデイジーなら…。

(注2) マルチメディアデイジーの利用

「テキストデイジー」との連動。墨字拡大やハイライト、音声情報が同期して表現。

特に、ディスレクシアの方々。動画も扱え、世界的なデイジー化・E-PUBへも。

(注3) 視覚障害者「等」を受け入れる館がない地域では日本障害者リハ協会が対応。

「等」を受け入れる公共図書館の全国網羅が望まれる。

(注4) 公共図書館は、サピエに書誌情報、点字・テキストデイジーデータ等は登録できる。

音声デイジーデータについてはサピエに直接登録ができない (サーバ容量のため)。

2014年6月からは国会図書館のサービスを通じてサピエからの利用も可能に。

*第37条3項「ただし書き」で、音声図書が「出版」されたら製作できない。

情報保障の基本:「音声図書等も墨字と同様に出版社が保障して製作販売する社会へ」

原本出版社の許諾を得ての録音図書出版: (有)オフィス・コアや(株)音訳サービスJ等。